

元女性国税専門官からのひとこと～世界の富裕層はどこに行く②～

今回は、世界中の富裕層の移住先に選ばれる、UAE とアメリカについて見てみましょう。

UAE（アラブ首長国連邦）の魅力

- ① 所得税と法人税の免除：UAE には個人の所得税がありません。これは、富裕層や高所得者にとって非常に魅力的です。また、多くのビジネスに対しても法人税が低く、ほとんどの業種では法人税も免除または非常に低い税率になっています。
- ② ゼロ税率の特定の分野：石油や金融など特定の産業を除き、多くの分野で税金がかかりません。これにより、投資やビジネス展開がスムーズになります。
- ③ 魅力的な居住権とビザ制度：UAE は長期居住や投資を目的としたビザ制度を整備しており、富裕層にとって住みやすい環境を提供しています。特に、「長期ビザ」や「投資者ビザ」などがあり、滞在や資産管理がしやすくなっています。
- ④ 相続税や資産税の不在：資産の相続や遺産税もないため、資産の移転や相続の際に税負担がありません。

それでもアメリカは「リスクを取ってでも移住する価値のある場所」

トランプ政権下やその後の共和党支持者の一部に排外主義的傾向が見られても、富裕層や投資家には比較的寛容な政策が続いています。アメリカは世界で最も整備された法制度を持っており、財産権の保護が非常に強固です。そのため母国の政治・経済が不安定な富裕層（例：中国、ロシア、中東など）にとっては、資産の「避難先」としてアメリカは魅力的なようです。

世界の富裕層がアメリカへ移住する理由

- ① 資産保護・法制度の信頼性：アメリカは世界で最も整備された法制度を持っており、財産権の保護が非常に強固です。特に明確な契約法、信託制度やタックス・プランニングの自由度、政府による財産の没収リスクが低いことが、母国の政治・経済が不安定な富裕層にとっては、魅力的なのです。
- ② 子どもの教育：アメリカには世界有数の大学（ハーバード、MIT、スタンフォードなど）があり、教育の質は非常に高いと見なされています。アメリカに住んでいれば「居住者枠」での大学入学の有利さもあるため、移住が戦略的に活用されます。
- ③ 経済機会・起業の自由度：アメリカは依然として起業・ビジネスの自由度が高く、イノベーションの中心地であり続けています。投資先や特にテック、金融、不動産分野でのビジネス拡大の足掛かりとして、富裕層が米国に居住・法人設立するケースが増えています。
- ④ 投資ビザ（EB-5）などの制度：アメリカでは、一定金額を投資すれば永住権が得られる「EB-5 ビザ」などの制度があります。政治的な移民排外政策の傾向があっても、富裕層向けの移民ルートは比較的維持・優遇されています。
- ⑤ 他国の締め付け（たとえば中国やロシアなどの、資本流出や出国に対する制限）や自国政府の監視・統制から逃れるため、香港や中東の政情不安、たとえ連邦政府レベルで移民政策が厳しくとも、カリフォルニアやニューヨークなどの州では比較的リベラルで、外国人富裕層にも寛容なこともアメリカを選ぶ理由になっています。